

## 授業で学級全体の「話し合う活動」へ導く際の教師の役割は何？

それは、**子どもの考えをコーディネートすることです！**



2学期の指導を充実させるための手立ての一つとして、「話し合う活動」における指導改善が挙げられます。(※3ページ参照)そこで、今回は、「話し合う活動」について特集を組みました。

授業の中で行う「話し合う活動」は、目的に応じて様々な形態が考えられますが、ここでは、教科の指導において、その授業の目標(めあて・ねらい)を達成するために、教師がコーディネート役となって、学級全体で子どもたちが意見を出し合う場面を想定して考えてみます。

この役割を、教師が具体的に意識していないと、次のような授業に陥ってしまうことが予想されます。



これでは、子どもたちにとって分かりやすい授業、力の付く授業になりません。

そこで、教師の役割の具体的な内容を、①「(子どもの考えなどを)ひきだす」②「(子どもの考えなどを)つなぐ」③「(みんなで考えたことなどを)もどす」という点で、「授業づくりのステップ1・2・3」に即しながら考えてみましょう。

### 子どもの考えをコーディネートする①

#### ●学級全体で「話し合う活動」●

##### ■ステップ1

子どもが考えを発表し、その内容を学級全体で共有していますか？

(子どもの考えなどを)  
**ひきだす**

まず、子どもがもっている知識や考え、生活経験や興味関心などを「ひきだす」必要があります。

子どもの考えなどを「ひきだす」中で、学習のめあてにつながる視点や疑問などが出てきます。たとえ、答えが間違っているとしても、その子どもなりの見方や考え方を受容することで、学習への意欲を高め、何でも言える安心した学習環境を作り出すことになります。

また、授業中の子どもの様子を観察し、発言したい子どものかすかな動きや意欲を見逃さず、タイミングよく指名することも大切です。

#### 【教師の言葉かけの例】

●●さんの考えを聞きたいな。



●●さん、くわしく説明してくれるかな。

#### 子どもの考えをひきだす方法(例)

- ・挙手による指名
- ・席などによる順番指名
- ・ノートの記述などをもとにした意図的指名 など

## 子どもの考えをコーディネートする②

●学級全体で「話し合う活動」●

### ■ステップ2

子どもと子どもの考えをつなぎ、子ども同士の交流を通して「話し合う活動」を進めていますか？

(子どもの考えなどを)  
**つなぐ**

次に、出された子どもの考えに対して、すぐに教師が返すのではなく、他の子どもへ投げかけるなどして、一人の発言を全体で分かち合えるように「つなぐ」ことが大切です。

同じ考えや違う考えなどを問うことで、教師が子どもの考えを「つないで」いきます。そうすることで、子ども同士がかかわり合う場を作りだすことができ、一人の考えが、より多くの子どもの考えへとつながっていきます。

【教師の言葉かけの例】

●●さんの考えと同じ人はいますか。

●●さんと違う考えの人はいますか。



●●さんの考えの続きが言えますか。

●●さんの考えを説明できますか。

## 子どもの考えをコーディネートする③

●学級全体で「話し合う活動」●

### ■ステップ3

子どもが出した考えを、共通性や関連性などの観点で整理し、みんなに示していますか？

(みんなで考えたことなどを)  
**もどす**

そして、子どもが出した考えを、一緒に比較・分類などしながら整理し、そこから学びを深めるための考える視点などを導き出します。それを学級全体に「もどす」ことやめあてに「もどす」ことで、さらに学びを深め、授業の目標へとせまっていきます。

みんなで考えたことを学級全体に「もどす」ことは、子ども一人一人の考えから次の段階へと、新たな「考える視点」を与えることです。そうすることで、焦点をしぼって考えさせることができます。その際、考えるための手立てや視点を明確にすることや、考えたことを言語化させることが重要です。

【教師の言葉かけの例】



A・B・Cの3つの考えの中で、今日のめあてに当てはまるのはどれですか。その理由は何ですか。

黒板に整理した2つの考えに共通していることは何ですか。

以上のことなどに留意し、子どもたちを学級全体で「話し合う活動」へと導くことで、考えを深めたり、広げたりすることができるような授業を目指していきましょう。

## 考えを深め、広げることができるような「話し合い活動」が必要なわけは何ですか？

それは、考えを深めたり、広げたりすることができるような「話し合い活動」を行うことで指導が充実し、学力向上にとって有効に働くからです。



今年度の全国学力・学習状況調査の結果において、次のようなことが言えます。

質問紙調査と学力のクロス分析から、「話し合う活動」に関する項目について「よく行った」などと回答している学校や児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

詳しいデータを見てみましょう。

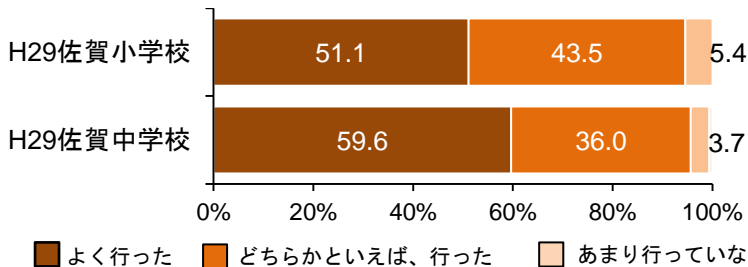
### ◆話し合う活動の状況◆

#### 「学校質問紙」

学級やグループで話し合う活動を授業などで行った



「よく行った」と回答した学校の割合で見ると、小学校は約 50%、中学校は約 60% です。



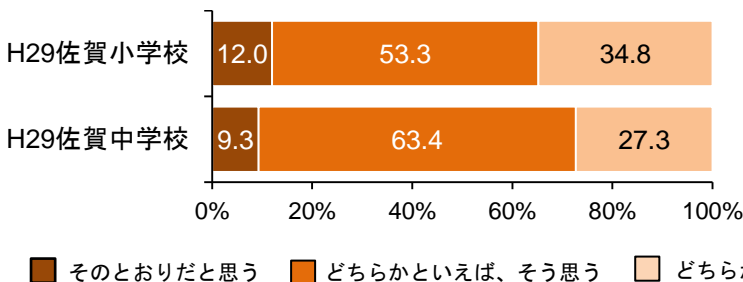
子どもが考えを発表し、その内容を学級全体で共有するような場の設定は、ほぼできているようです。

#### 「学校質問紙」

児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている



「そのとおりだと思う」と回答した学校の割合で見ると、小学校、中学校ともに約 10%にとどまっています。



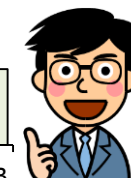
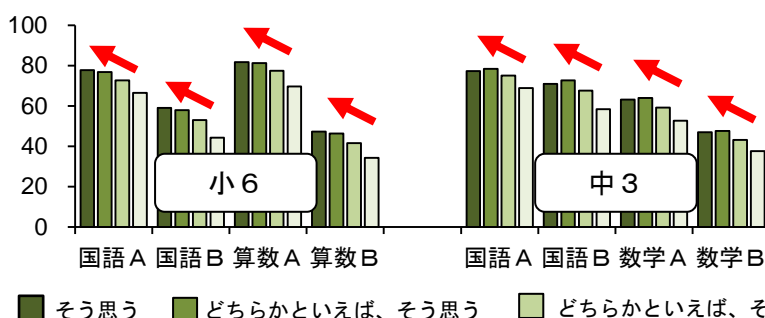
上記の質問項目とあわせると、子どもと子どもの考えをつなぎ、子ども同士の交流を通して「話し合う活動」を進める必要があるようです。

#### 「児童生徒質問紙」

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えた児童生徒と平均正答率との関係



児童生徒の意識と平均正答率との関係を見ると、「そう思う」と意識しているほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。



「話し合う活動」での教師の役割を意識し、子どもたちにとってより力の付く授業へと改善していきましょう！